

# 第46回(2023年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2024/3/30】

## この試合のプレー集計

**A決勝**

原田学園SS

4

0	—	2
1	—	1
0	—	1
3	—	0
PSO 2		

6

千葉水球クラブ

審判:

森林 和三  
松本 朗

原田学園	22	SH数	16	千葉水球クラブ
学	2	速攻数	1	
園	4	ST・SB	4	
S	3	SH・P誘発アシスト	4	
S	56%	GK阻止率	71%	
S	5	EX反則数	11	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	連攻	コントラ	失点	GK阻止率
原田学園SS	84	47	20	40	24	48	18	9	22	42.1%

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	連攻	コントラ	失点	GK阻止率
千葉水球クラブ	57	34	19	14	30	39	19	11	9	70.0%

## 【試合の流れ】

夏の決勝の再戦となった決勝戦。夏は1点差で千葉水球が優勝を果たしたが、原田学園はパワフルな攻撃力でリベンジなるか。大接戦が予想される。序盤は千葉がGK①今関を軸にしっかり守ってからの攻撃で主導権を握り、後半になって原田が追い上げるという展開が繰り返されるであろう。

### 【1P】

原田⑦田中がサイドからゴール前にボールを持ち込む得意のプレーでペナルティ誘発。その⑦田中のペナルティSHを予想通り千葉GK①今関が防ぎ、その後の千葉の攻撃で②村山がシュートこぼれ球を決めて、千葉が先制(原田0-1千葉)。千葉⑦高野がサイドから突破で退水を誘発、退水場面で千葉④横田がコーナースローから決めて千葉が追加点(原田0-2千葉)。原田も懸命に攻め、ピリオド終了直前に⑤眞喜志が原田が得意とするゴール前でのペナルティ誘発でペナルティSH。しかしこのシュートも千葉GK①今関がセーブして第1ピリオド終了(原田0-2千葉)。原田はペナルティSH2本以外にはシュートらしい場面がなく、対する千葉は得点こそ2点に留まったが攻撃パターンの選択肢も幅広く、試合全体としては千葉が支配した第1ピリオドだった(原田シュート3本-千葉シュート6本)。

### 【2P】

原田は千葉のセンター攻撃に備えてゴール前を固め、トップ位置DFをやや下げさせる防御。しかしその中でも千葉②村山がセンターSH。これは外れたが、千葉側の攻撃力が原田DFを上回っている展開を物語った場面であった。そういう試合ペースの中、千葉GK①今関が原田のシュートを止めた後、⑧小鷹がペナルティを誘発。そこを④横田が決めて原田0-3千葉と点差を広げた。すかさず原田ベンチはタイムアウトで戦況打開を図るも千葉に対応されて突破口が開けない。千葉のオフェンス反則から原田⑤眞喜志がゴール前でペナルティ誘発。しかし、千葉GK①今関を意識し過ぎてペナルティシュート(バウンドシュート)を外すという悪循環。それでも粘る原田は⑦田中が攻防転換場面で退水を奪い、その退水攻撃場面でもセットを組まずに⑤眞喜志が相手DF2人をおかわすプレーで、ゴール前に運んでようやく原田が1点を返して第2ピリオド終了(原田1-3千葉)。

### 【3P】

千葉がセンターボールからの攻撃で⑧小鷹が退水を誘発し、そこを④横田が決めて点差を広げる(原田1-4千葉)。直後、今度はまたしても原田⑤眞喜志が相手DFをおかわすプレーでペナルティ誘発。しかしこのペナルティシュートもポストに嫌われて失敗。千葉GK①今関の体格の大きさが原田側には大きな脅威となっていた。その後は戦前の予想通り、後半になってからの原田ペースの展開に。外周での動きで退水を誘発する場面が増え、そうしたチャンスはものにするにはできなかったが、その中で千葉のエース④横田が3ファウルでゲームエクスクルージョンに。こうなると、原田は攻撃に専念できる体制が組める状況で勝負は最終ピリオドへ(原田1-4千葉)。

### 【4P】

千葉はエースが抜けた中でも果敢に攻撃するが、⑨宮越が右45°からいいシュートを放つが失敗。さらに退水攻撃も実らず点差を広げられない状態が続く。対する原田もボールをゴール前に持ち込む得意のプレーを繰り返すが、⑤眞喜志も⑦田中も千葉側のダブルマークで失敗。残り時間はすでに1分を切る攻防となった。原田が千葉の退水攻撃を防いでから猛攻に。⑦田中がゴール前でシュートを放つが千葉GK①今関がセーブで原田のコーナースローに。そこで⑤眞喜志が退水を奪い、原田側の退水シュートを千葉GK①今関が懸命にセーブするが、こぼれ球は原田に。最後は⑦田中が決めて原田2-4千葉と2点差に(0:34)。優位に立っている千葉だが、選手の動揺は隠しきれず、攻撃中のミスでボールは原田へ。すかさず原田ベンチはタイムアウト(0:20)。そこで⑤眞喜志が得意のゴール前持ち込みプレーでペナルティ誘発。これまでペナルティSHが決まらなかったが、ここは渾身の力を込めてゴールネットに突き刺して原田3-4千葉と1点差に(0:10)。流れが一気に原田に傾いた場面で千葉はタイムアウト。しかしこのことが選手たちのプレーに硬さを生んだようで、イーージーなオフェンス反則。ボールが原田⑦田中から⑥川上にわたって同点ゴールを生み出した(残り4.7秒)。この千葉のタイムアウト後のショットクロック操作にもやや問題があったが、それでも原田の最後の粘りは立派であった。

### 【PSO】

運命のPSOは、こうなると千葉GK①今関が強力な「壁」となって原田を零封。原田GK①吉永も好セーブを連発したが軍配は千葉に上がり、千葉水球クラブは夏春JO連覇を果たした。昨年度はカワサキSCが夏春連覇を果たしたが、今回の千葉は予選リーグで豊中水球クラブに完敗してからの優勝であった。